

## 安全対策はまず私たちと話合うことだ！

**JR東海労名古屋地本「申第2号」で高山線・落石、衝撃事故について申し入れる**

8月23日、高山線白川口～上麻生間で落石と衝撃する事故が発生しました。幸い乗客、乗務員にけがはありませんでしたが、地形から見ても一歩間違えば脱線し、崖下に転落、トンネルに激突という大惨事にもなりかねませんでした。

### 大雨による被害は記憶に新しい

高山線では、過去、1996年特急「ひだ」が落石と衝突、脱線事故が起きています。また、昨年7月大雨により、飛騨金山～下呂、角川～打保において土砂崩れや土石流により線路設備が流され長期にわたり不通となっていました。

### 7項目の申し入れ

JR東海労名古屋地本は、すぐ現場に組合役員が急行しました。現地の危険箇所はもとより乗務員が安心して働けるよう、危険箇所の把握をはじめ安全対策の徹底を要求し申し入れを行いました。



2018.7/7飛騨金山～下呂

### JR東海労名古屋地本「申第2号」

- ①事故発生の際と被害状況を明らかにすること。
- ②発生箇所に落石警報装置は設置されていなかった、しかし危険な岩が多くある場所であるとも聞く、発生前における当該箇所の落石への危険の有無についての見解
- ③当面の措置として、落石警報装置の設置を急ぎ実施し、防護柵等、落石を線路に流入させない対策を実施すること。
- ④事故前には断続的な降雨が認められる。雨量規制のあり方について明らかにすること。
- ⑤高山線沿線は、自治体作成のハザードマップによると危険箇所が多くある線区と認識する。会社の知得している危険箇所について明らかにし、それらの箇所に対する防護施策を明らかにすること。
- ⑥高山線はもちろん、管内における同様な危険箇所について緊急に点検を行い安全を確保すること。
- ⑦トンネル付近は、トンネル側から進行すれば乗務員からの視界が悪く、逆に、トンネルに向かい進行する場合、脱線が発生すると列車がトンネルに激突する恐れのある危険箇所である。トンネル前後の安全策を充実させること。

**安全に躊躇は許されない早急に団交または業務委員会の開催を！**